

Title	國防税ノ當否(一)
Author(s)	神戸, 正雄
Citation	經濟論叢 (1916), 3(3): 326-345
Issue Date	1916-09-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/127085
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第三號

第三卷

論說

聯合國經濟同盟^{ニ對スル}我國ノ態度

法學博士 戸田 海市

國防稅ノ當否(一)

法學博士 神戸 正雄

でうあつぎ・ひゅーむノ經濟學說(五)

法學博士 福田 德三

『座』ノ研究(二)

文學博士 三浦 周行

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係^{ヲ論ズ}

法學博士 小川 郷太郎

資本ノ眞概念ノ發展(三、完)

法學博士 河上 肇

雜錄

小野塚牧野兩博士ノ新著

法學博士 福田 德三

不換紙幣流通ノ根據^{ニ就テ}福田^{博士ニ答フ}

法學博士 戸田 海市

びゆつひあーノ經濟^達發^達階段^{ニ非ズ}說^{ハ其獨創}

法學博士 神戸 正雄

最低賃金ノ制度ニ就キテ

法學博士 山本 美越乃

日英ノ物價

法學士 河田 嗣郎

手ノ器用ト其脩養

法學士 財部 靜治

『通俗經濟文庫』卷一ヲ讀ミテ

法學博士 河上 肇

『瀧本誠一^{氏ノ草莽ニ就テ}危言摘義解題^{ニ就テ}』ノ補遺

法學博士 鈴木 券太郎

(載 轉 禁)

國防税ノ當否(一)

神戸 正雄

緒言

第一段 著者ノ賛成論旨 (一)給付能力上ノ根據、(二)給付能力ノ説明、(三)本税ノ特別意義及效果、(四)收入政策上ノ價值、(五)收入ノ使途、(六)本税ノ性質、(七)本税ト同一目的ヲ達スル他ノ方法

第二段 諸學者ノ賛成論據ト其批評 (一)國家ノ共同原則及國務ノ歴史的發展上ヨリ説クモノ、(二)全軍務負擔ノ平準トスルモノ、(三)軍務負擔ニ於ケル經濟上ノ負擔ノ平準トスルモノ、(四)對價物トスルモノ、(五)免役者ノ受クル經濟上ノ利益ニ基クトスルモノ、(六)一ノ犧牲トスルモノ、(七)實際財政收入上ノ目的ニ適フトスルモノ、(八)國家ノ兵卒ニ對スル世話ノ不十分ナルコトニ本税ノ必要ヲ認ムルモノ、(九)收額ヲ服務者ノ利益ニ使用スルコトニ本税ノ正當ヲ認ムルモノ、(十)或不道義的實行即チ免役トナランガ爲メ身體ニ缺點ヲ作ルヲ防止スルコトニ於テ有益也トスルモノ、(十一)人種改良ニ適フ即チ一般兵役義務ガ人種劣惡ヲ進ムルヲ本税ニヨリ防止セントスルモノ、(十二)人口事情ニシテ本税ヲ助成スルモノアリトスルモノ、(十三)民主的平等觀ニ基クトスルモノ、(十四)服務者ノ不平感情ヲ融和スルノ具トシテ必要也トスルモノ

第三段 諸學者ノ反對論據ト其駁撃 (一)兵役義務ノ名稱義務タル性質ヲ傷クルトイフコト、(二)免役者ガ其兵役義務ヲ果シ得タリト感ズルコトナル恐アルコト、(三)本税ニヨリ指示スヘキ過重負擔ノ平準ガ無條件ナル兵役義務ノ原則ト一致セザルコト、(四)國家ガ喜ンデ服務スヘキ強健ナル者ニテモ國家自身ノ必要上之ヲ免役ト爲シツツ、此者ニ課税スルハ不都合也トイフコト、(五)免役者ハ多クハ肉體上缺點アリ全ク同情スヘキモノナルニ、此上ニ特別ノ税ヲ課スルハ殘酷也トイフコト、(六)善意ノ勤勞不能者ニ對スル罰金也トイフコト、(七)常ニ多少罰金のナル本税ガ多數ノ勤勞不能ナル青年ヲ有スル家族ニ對シテハ固有ノ罰金トナルトイフコト、(八)兵役ノ人的給付ト本税ノ支拂トハ互ニ比較スヘカラズトイフコト、(九)本税ニ於ケル公平ハ外形の公平ナリトイフコト、(十)本税ノ高サガ恣意的ナリトイフコト、(十一)各社會階級ノ間ニ兵役負擔ノ不公平ヲ生ズルコト、(十二)兵役勤勞ノ負擔ハ兵役ノ名譽ト軍事上ノ訓練トニヨリ平均セラレテ免役者ニハ別ニ税ヲ課スルニ及バズトイフコト、(十三)兵役勤勞

ハ平準ヲ要スルガ如キ經濟上ノ損失ニ非ズトイフコト、(五)服務者ノ損害ヲ排除セズトイフコト、(六)本税ハ原則的ニハムシロ
避クヘキモノ也トイフコト、(七)免役者中甚シキ缺點アル者ヲ區別スルコト困難ナリトイフコト、(八)免役者ノ一大部ガ經濟上
ノ從屬者タルコト、(九)婦人ヲ負擔セシムルノ困難トイフコト、(十)小供ナキ家族ヲ全ク課税セザルコト、(十一)人口制限ニ導クコ
ト、(十二)小供數ノ分配ノ異同ニヨリ國內各部ニ負擔ノ不公平ヲ生スルコト

緒 言

國防税ノ何タルカニ就テハ、前ノ姉妹論文タル國防税ノ本質ニ説イタカラ、重テ多辯ヲ費サヌ。
其節ニモ一言シタル如ク、本税ニ關スル問題ノ重點ハ寧ロ此ニ論ゼントスル其當否如何トイフ
ニ在ルノデ、之ニ就テハ由來學界ニ喧シキ論戰ガアツテ、未ダニ結末ニ到達セヌトイフテ良イ。本
税ガ一見適切ナル税ノヤウデアルニ拘ラズ、實例ヲ見ルト之ガ採用ヲ見タルハ尙ホ少ク、一旦採
テ止メタルモノスラアルトイフニ就テハ、何等カ此ニ根本的的重大ナル故障又ハ弱點ニテモアルノ
デハナイカトイフ疑ガ生ズル。^(註一)予ハ此ニ興味ヲ感ジテ、廣ク手ニ入ルダケノ文書ヲ涉獵シテ、諸
家ノ論説及記述ヲ點檢シ、併テ自分ノ思索ヲ加ヘタ結果トシテ、漸ク凡ソ下ノ如キモノヲ收穫シタ。
(註一)尤モ瑞西デハ一般ニ本税ニ満足シテ居ルトイフコトデアル。ハルリングノ記述ニ依ルト、彼ガ瑞西ノふらうんふえ
るギンフーバー商會トイフ書翰ニ本税ニ關スル參考書ヲ注文シタラ、其書翰ガ彼ニ書ヲ送ツテイフノニ、此税ニ關スル參考
書ハ瑞西ニハナイ。何トナレバ此ガ總ベテノ租税中最公平ナルコトガ瑞西デハ殆ト自明ト見做サレテ居ル程デアルカラト。¹⁾

本論説述ノ順序ハ先ツ予ガ本税ヲ正當トスル論據ヲ示シ、然ル後從來ノ諸家ガ學ケタル賛成論

1) Harling, Eine Wehrsteuer für Deutschland. S. 21.

據ヲ指摘シテ之ヲ批評シ、更ニ諸士ノ本税ニ對シテ加ヘタル非難ノ論點ヲ列舉シテ以テ之ヲ駁撃シ以テ予ノ主張ヲ確立シヤウト思フ。

第一段 著者ノ賛成論旨

(一) 予ハ前論文ニ於テ本税ガ租税デアルコト而モ其ガ直接税デアリ交通税デアリ物税デアリ且ツ一般税タルコトアリトイフコトヲ認メタ。此ニ既ニ予ノ贊意ガ籠テ居ル。予ガ本税ヲ認ムル根據ハ、兵役免除トイフコトガ免役者又ハ其家長ニ對シ、服務者又ハ其家長トノ相對關係ニ於テ一層大ナル給付能力ヲ生ズト認メラルルコトニアル。固ヨリ其ノ此ガ果シテ幾許ダケ給付能力ニ差等ヲ生ジタルヤヲ客觀的精密ニ指示スルコトハ出來ナイ。又各箇具體的ノ事例カラ見レバ兵役ニ服シタル方ガ免役サルルヨリモ利益也トイフコトモアリ得ルケレトモ、大局ヨリ見レバ何ウシテモ兵役ヲ免除サレタル者ノ方ガ之ニ服シタル者ヨリモ一層利益ヲ受クルモノトイハナケレバナラヌ。少クトモ主觀的ニハ各人ニ大抵ノ場合兵役免除ニコリ經濟上有利トナレリトノ感ヲ懷カシムルカラ、其處ヲ捕捉シテ課税スヘキデアル。(註二) 茲ニ一ノ給付能力カアル。彼ニ對シ、服務者ノ負ハザル或税ヲ課シテモ、彼ハ之ヲ以テ不公平又ハ過重負擔ヲ負ハサレタトハ感ジナイ。

(註二) 予さらゝるハ本税ハ免役者ノ補完的負擔トシテ、給付能力ノ上ニ立テラレタル租税制度ガ完全トナル爲メニ適當ナル課

徵物ナリトイヒ、更ニ兵役勤務ヲ行ハザル者ハ服務者ヨリモ一層大ナル主觀的給付能力ヲ有ツコトガ生ズトイフ。²⁾

(二) 一面カラ見ルト免役者ハ家ニ在ツテ其々營利ニ從事シテ所得收益ヲ擧ゲ、隨テ服務者ノ擧ケザルモノヲ擧グルコトトナリ、茲ニ自ラ前者ハ後者ヨリモ一層大ナル給付能力ヲ示シテ、其々諸多ノ稅ヲ課セラルルコトニナルカラ、其上ニ本稅ヲ取ルノハ過重負擔ノヤウデアルガ、併シ免役者ハ其免彼トイフ事ニ就イテ其事自身カラシテ經濟上ノ利益ヲ受ケ又ハ少クトモ之ヲ受ケタリト感ズルカラ、一般人トノ關係上取ラルル所ノ租稅ノ外ニ、尙ホ此服務者トノ關係上特段ナル租稅ガ取ラレテモ差支ガナイ。一體現文明國ノ租稅制度デハ、一ノ所得又ハ財産ニ一重ノ稅シカ課セラレナイトイフノデハナクテ、特段ナル給付能力ヲ示スヘキ根據アル以上ハ、二重三重ニモ負擔セシメラルル所デアル。即チ或人ノ所得ハ全體ノ所得ノ入ル所ニ就イテ所得稅ヲ課セラレ、其ガ土地營業ヨリ出ル所ニ就イテ地租營業稅ヲ課セラレ、得タル所得ニテ買物ヲ爲シ又ハ貸金ヲ爲セバ、交通稅例之印紙稅登錄稅ノ如キヲ課セラレ、消費物ヲ買取リ消費スルニ就イテハ諸多ノ消費稅ヲ課セラルルコトトナル。或ハ又醫師ノ資格ヲ得ルトイフ價值移動ノ事實アレバ之ニ基イテ登錄稅トイフ交通稅ヲ課シ、其醫師ノ所得ニツイテハ別ニ所得稅ヲ課シ、其所得ヲ使用スレバ消費稅等ガ課セラルルコトニナル。此等ハ凡ベテ其々ニ給付能力ノ根據ヲ捕捉シテ課稅シタモノニ過キナイ。今免役ニヨツテ生スヘキ價值ノ移動ニ現ハレタル一ノ特段ナル給付能力ヲ捕捉シテ課稅スルトイ

2) Strahl, Der Streit um die Wehrsteuer. S.171.

3) Derselbe, ebenda. S. 169.

フトモ、此等ノモノトノ釣合カラシテハ毫モ不當デハナイ。

(三)斯ク吾人ハ此税ヲ普通ノ税ト同一ノ根據即チ給付能力ノ存在ニ置クモノデアルガ、然リトテ此ニ特別ノ意義ヲ全ク與ヘザルモノデハナイ。免役者ガ免役ニヨツテ、其ノ盡スヘキ義務ヲ盡シ居ラザルコトヲ感ジ、セメテハ此税ニヨツテ其高ガ一ヲモ充タサウトイフ心掛トナルコトヲ希望スル。國防税トイフ名ヲ選ンダノモ、畢竟此税ニ斯カル道義的意義ヲ與ヘントシタガ爲メデアル。予ハ即チ本税ノ背面ノ理由トシテ一ノ愛國の意義ヲ添エヤウト思フ。^(註三)更ラニハ又本税ガ健全ナル社會ヲ構成スルニ必要ナル中等農民保護テフ重大ナル目的ニ適フノ傾アルコトモ亦タ無視スルヲ得ナイ。^(註四)

(註三)元來凡ベテノ税ガ愛國のノモノ也トモイヘルガ、本税ハ其上ニモ兵役ト關係アルタケニ於テ二重ニ愛國のナリトイフコトガ出來ル。れーざん⁽⁴⁾、ぶーらんじえー爾人ハ此税ヲ愛國のノ税ト呼ンデ居ル。其趣意ハ矢張り此ニ在ル。

(註四)免役者ガ中等農民ニ割合ニ少キコト又ハ服役者ガ彼等ニ割合ニ多キコトヲ精確ニ示ハヘキ數字ハ有タヌガ、予ガ信據スベキ筋ヨリ調査ンタル左ノ二種ノ數字ハ、大體ニ於テ此傾アルコトヲ察スルニ足り、隨テ本税ヲ賦課セザル現狀ノ下ニ於テハ、彼等ガ他階級ノ者ニ比シテ不利ナルモノアルヲ示スコトガ出來ル。デ本税ノ賦課ニヨリ他階級ノ者ノ負擔ヲ増加スルトハ、少クトモ相對的ニ中等農民ノ地位ヲ真好ニスルコトナル。

兵卒一〇七人中
農民 六七、
其他 四〇

直接國税十圓以下 四三、
同右十圓乃至五十圓 五一、
同右五十圓以上 一三、

(四) 併シ本税ハ其收額カライフテ價值ノ大イモノデハナイ。少クトモ經驗上小收額ニ止マル。但、タ
 漸増の傾向ヲ有ツモノデハアル。(註五) 此税ガ財政收入政策上ノ價值ハ大キクハナイガ、既ニ根本
 のニ給付能力捕捉ノ道義原則上存立ノ理由アリトスルナラバ、本税ノ收入政策上ノ理由モ亦其存
 立ノ附隨ノ理由タルニハ足ル。

(註五) 現在本税ヲ實行スル諸國ノ本税收入ノ變遷。

	瑞 西	奧	匈	ぶるがりや	るめにや	せるびや
一八九八	三、三六、三三六	一、七五、一一一	五、六六、一〇〇〇	五、五九、五〇〇	一、六、五〇〇	一
一九〇九	三、二五、三三六	三、〇八、二八六	五、四〇、一〇〇〇	五、〇三、一〇〇	一、一、五〇〇	三、〇三、二八六
人口一人當	一・〇七馬	〇・〇七馬	〇・一一馬	〇・〇二馬	〇・一〇馬	〇・〇〇馬

(五) 然リ而シテ本税ハ兵役免除トイフコトカラ生ズル特段ナル給付能力ヲ見テ課スル所ノ純然タル
 租税デアリ、兵役勤務ニ對スル補償又ハ對償トイフ意義ノモノデナイカラ、其收入ハ凡ベテ原則
 通り一般國費ニ充ツルコトトスルヲ至當ト思フガ、併シ其收額モ大シタモノデナイコト上記ノ如
 クデアリ、且ツ兵役義務ト關聯シテ生ジタルモノデアルカラ、其收入ヲ以テ、目下軍事關係ノ費
 用ニシテ不十分ナル嫌アルモノ例之廢兵ノ扶助、現役兵及在郷軍人ノ被招集者ノ家族ノ扶助等ニ
 向クルコトモ實際カライヘバ適當デアラウ。併シ之ガ爲メニ一ノ特別基金特別會計ヲ作ルコトハ
 勸ムヘキデハナイ。矢張り本税收入ハ一般收入ト共ニ國庫ニ收メテ、別ニ本税設定ト同時ニ廢兵

扶助、兵士ノ家族扶助ノ國費ヲ増加スヘキモノデアル。

(六) 本税ノ性質ニ就テハ既ニ前論文ニ詳述シタガ、當時イヒ殘シタコトデ而モ本税存立理由ヲ明ニスル上ニ重要ナルモノガアルカラ、茲ニ敢テ附説スル。即チ本税ガ直接税ニシテ且ツ交通税也トイフコトデアル、交通税ニシテ、直接間接負擔ノ意義ノ直接税タルモノハ他ニモ例ガアリ(例之相續税) 別ニ不思議デナイガ、交通税ニシテ臺帳税從率税ノ意義ニ於ケル直接税タルモノハ從來其例ニ乏シイ。交通税トイヘバ凡ベテ此意義ノ間接税ト認メラレテ居ル所デアルノニ、茲ニ本税ガ交通税ト認メラレ、而モ臺帳税タル直接税タルコトハ全ク例外的ノ事トイハナケレバナラヌ。蓋シ兵役免除トイフコトガ其免役者又ハ其家長タル人ニ於ケル價值ノ移動ヲ他ノ服務者又ハ其家長トノ相對關係ニ於テ生ズルノ故ニ、本税ヲ課スヘキモノデアリ、而シテ斯ノ如キ價值ノ移動ガ普通ノ交通税ノ物件タル事實ノ一回的タルト異リ、數年十數年ニ亘ル長期連續的ノ事實ユヘ、臺帳税的ニ課セラルルコトトナルノデアル。

(七) 或ハ本税ト同一目的ガ服務者ノ處デ租税例之所得税ノ如キヲ免除又ハ輕減スルコトニヨツテモ達セラレ得ルヤウデアルガ、此方ハ免役者ノ處デ課税スルト異リ、國家收入政策上不利ナルノミナラズ、此方法ニヨツテハ富者ホドリスルコト大ニ、貧者利スルコト小ニ、極貧者ニ至テハ何モノモ利セザルノ不公平ヲ生ズル缺點ガアル。矢張り本税ヲ採ルノ勝レルニ如カナイ

第二段 諸學者ノ賛成論據ト其批評

本税ニ關スル諸學者ノ採用理由ハ多々アルガ中ニモ最穩當ニシテ予ノ說ニ近イノハ

(一) 國家の共同原則及國務ノ歴史的發展上ヨリ說クモノ

デアル。此說ノ代表者ハこーんデアル。彼ニ依レバ今日ノ國家生活ニ於ケル分業ノ必要トイフコトガ人民ノ人的給付ノ不能ニ對シテ物的犧牲、即チ租税ニヨル人民ノ給付ノ補償ヲ必要トシタ。デ一方人民ガ租税ヲ支拂ヒ、他方分業的ニ組織セラレタル國家有機體ガ人民ノ人的ニ給付スル能ハザルモノヲ給付スルト均シク、近世文明ノ結果トシテ肉體上ノ不能ノ爲メニ兵役義務ヲ行フコトノ出來ザル人民ノ大半ハ此缺陷ヲ其租税力ヲ以テ補足スヘキモノデアル。人民ハ一般ニ有給ノ裁判官職業的兵士大臣及立法者ニ對立シテ、彼等ガ此等ノ者ノ給付ヲ受ケ、租税ニヨツテ物的ニ償フガ如ク、兵役勤務不能ナル人民ハ、特ニ之ニ有能デ現ニ服務スル人民ノ給付ニ報キナケレバナラヌ。其受取ルモノニ對シテ其能力ニ應ジテ支拂ハナケレバナラヌ、トイフノデアル。(註六)

(註六) 本文ハこーんノ論文集ノ文句ニ依ツタ。彼ノ著「財政學」ニ於テハ此ホドニ明瞭デナイ。曰ク人ガ租税義務ノ外ニ立ツ所ノ他種ノ(人的)給付デ、他税ト均シク給付能力ニ從テ人民ニ要求セララルモノニ於テ、相當ナル人的給付力ノ缺乏ノ爲メニ人民ノ一部ノ者ノ利益トナルカ如キ公正ノ缺陷ガ生ジ、隨テ之ガ補償ガ必要トナリ、人的給付ノ代リニ經濟的給付力ヲ要求スルノ物的給付(租税)ニヨリ充タスヘキコトノ認識ニヨリ刺戟サル所ノ公正ノ感知ニヨリテ此種ノ税ニ違シタトわぐな⁸⁾。本税ノ二ノ解釋ノ中ノ第一ノモノトシテ此國家の共同ノ原則及其歴史的發展ヨリスルモノヲ舉ゲ、其他ノ租税ガ役人ノ俸給

7) Cohn, Volkswirtschaftliche Aufsätze. S. 185-6.

8) Cohn, System der Finanzwissenschaft. S. 285

ヲ支拂フコトニ進ムト同一ノ方法ニテ兵役勤務ノ費用ノ調整ノ爲メニ租税トシテ本税ガ進ムヘシトイフテ居ル。⁹⁾ヘつけるモ亦其第一理由トシテ之ヲ擧ゲ、曰ク兵役勤務ハ其名譽動機ヲ開ハズトシテ、純經濟上ノ立脚點ヨリハ一ノ經濟上ノ負擔、犧牲ヲ意味スル。國家共同ノ原則ニハ犧牲ノ平等ガ適當スル。此故ニ肉體上ノ力又ハ其他ノ理由ガ人的勤務ノ實行ヲ妨クル者ハ少クトモ其經濟上ノ給付能力ヲ以テ進ムコトガ公正デアルト而シテ更ニ歴史的ニ國民經濟ニ於ケル分業ノ發展ト結付ケ、人的勤務ニコリ素サレタル犧牲ノ平等ヲ再生スル爲メニ、平準的公正ノ表示トシテ本税ガ現ハルト爲スノデアアル。¹¹⁾

此説ガ租税ヲ以テ一ノ犧牲ト爲シ、給付能力ニ應ジテ給付スヘキコトヲ要求スル所ハ予輩ノ考ト一致スルガ、其ノ本税ニ於テ補償ヲ要求シ、犧牲ノ平等ヲ勸メ、平準的公正ノ表示ヲ認ムルニ就イテ、本税ト本税以外ニ立ツ所ノ人的給付トノ關係ニ於テ之ヲ説クニ至テハ宜シクナイ。物的給付ト人的給付トノ間ニ平等ノ關係ヲ求ムルコトハ出來ナイ。本税ニ於ケル平等トイヒ平準トイフモ、本税給付者相互ノ間ノミノ問題ニ過キナイ筈デアアル。

(二) 軍務負擔ノ分配の公正ヨリ説クモノ——其一、全軍務負擔即チ其人的及物的負擔ノ平準トスルモノ

此説ハ全軍務負擔ニ平準ヲ得セシメントスルモノデ、服務者ハ主トシテ人的勤務ヲ以テ、免役者ハ之ニ對シ物的給付ヲ以テ貢獻セシムヘシトスルモノデアアル。^(註七)

(註七) わぐな一ハ本税理由ノ第二見解トシテ之ヲ擧ゲ、兵役勤務ノ負擔ノ性質ニ基キ、非勤務者ニ對シテ勤務者トノ平準ヲ得セシメヤリトイフノデアアル。¹⁰⁾ヘつけるモ亦本税ノ第二見解トシテ之ヲ擧ゲ、兵役勤務ノ性質トシテ特有ナル強制ノ動機力、此負擔チ人的理由ヨリ貢ハザル者ハ平準的課徴物ヲ支拂ハサルヘカラザルコトヲ要求スルトイフテ居ル。¹³⁾しゆみつま各ノ

9) Wagner, Spezielle Steuerlehre. I Teil, im Schönberg' Hb. 4 Aufl. III. I. S. 454.

10) Heckel, Wehrgeld, Wehrsteuer, im Elster' Wb. 2 Aufl. II. S. 1308.

Derselbe, Lehrbuch der Finanzwissenschaft. I. S. 115-6.

11) Derselbe, Lehrbuch. I. S. 116.

12) Wagner, a. a. O., im Schönberg' Hb. 4 Aufl. III. I. S. 454-5.

13) Heckel, Wehrgeld, Wehrsteuer, im Elster' Wb. 2 Aufl. II. S. 1308.

Derselbe' Lehrbuch. I. S. 116.

役勤務ハ金錢ニテ代ハラレ又ハ補ハルコトノ出來ザル高キ人的勤務テ、金錢支拂ヲ以テ少シモ之ヲ増減スルコトヲ得ヌ。兵役勤務ヲ爲サザル者が其代リノモノヲ供スルコトハ出來ナイ。彼ハ不名譽デアルトイフ位ノ自覺ヲ爲スヘキモノデアル。免役者ニ斯カル感ヲ懷カシムルノニハ此説明デハイカナイ。予ノ如ク免役ニ於テ單ニ特段ナル給付能力ヲ認メ之ヲ捕捉スルトイフコトニ解スルヨリ外ハナイ。

(三)軍務負擔ノ分配の公正ヨリ説クモノ——其二、軍務負擔ニ於ケル經濟上ノ負擔ニ對スル平準トスルモノ

此説ハ前ノ説ノ缺點タル兵役勤務ノ人的給付ト租税ノ物的給付トノ平準ノ困難ヲ顧慮シテ之ヲ排除シ、單ニ兵役勤務ニ伴フ經濟上ノ負擔ニ對スル平準トシテ本税ヲ要求スルモノデアル。(註八)

(註八)此説ノ代表的學者ハふなづけトイフテ其イ。彼ハ曰ク、兵役義務ハ二ノ方面ヲ有ツ。人的ト經濟的ト是デアル。而シテ其人的ノ方デハ平準ハ出來ナイ。此人的ノ方ニ給付能力標準ノ行ハルルノハ、必要ナル能力ヲ有セザル者ハ勤務スヘキデナイ。又勤務スルコトモ出來ナイトイフコトニ於テデアル。即チ弱者ヲ缺點ナ有スル者ハ勤務スヘキデナイ。此ニハ何モノヲモ平準スヘキデナイ。何トナレバ人的負擔ニツイテハ何モノヲモ負擔者(兵役勤務者)ヨリ取去ルコトハ出來ズ、又非勤務者ニ相當アル人的負擔ヲ見出サウシテモ、勤務者ニ助ナルカ如キ何モノヲモ見出スコトヲ得ナイカラ。此故ニ此人的方面ハ全ク除外サレナクレバナラヌ。テ此平準ニ於テハ唯ダ經濟上ノ方面ノミガ考察ニ來ルナ得ルコトナル。茲ニ兵士ハ國家ヨリ支給サルモノダケデハ不十分デ、殆ンド凡ヘテノモノガ郷家ヨリ送金ヲ受クルコトハ一般周知ノ事デアル。一體兵士ノ受クルモノハ全ク有給勞働者が同一ノ勞苦ニ對シテ爲スヘキダクノ要求ニ相當シナイ。唯ダ極貧者ダケガ送金ナリシテ

辛乏シテ通ホスコトニナル。ケレトモ其ハ標準ニハナラス。テ既ニ入營前ニ利得ヲ爲シタ者ニ取テハ、損害ハ其舊時ノ利得ト兵士給與トノ差額並ニ往々ニシテ地位喪失ノ損失ニ存スル。修業中ノ者ニ取テハ其損害ハ、服務中ノ多數ト其遲延ヨリ生ズル收入ノ減少トニ均シイ。斯ク兵役勤務者ハ非勤務者ノ負ハザル經濟上ノ犧牲ヲ負ハサルヘカラサルコトナルガ、尙ホ此外ニ服務中、家族扶助ニ件フ損害モアルト、彼更ニ曰ク、此說ハ兵役勤務者ガ一般賃金狀態ニ相當シタル賠償ヲ受ケザルコトノ缺點ニ對スル必要ナル救済手段アルト。²⁰⁾ふゑるしゆモ亦本税ノ理由トシテ平準的公正ヲ擧ゲ、之ヲ説明シテ曰ク、兵役勤務ノ實行ハ大ナル金錢上ノ犧牲ヲ要求シ經濟上ノ損失ヲ齎ラス。然ルニ一般兵役勤務ニ基キ兵役勤務義務ヲ負ヒツツ或理由ノ爲メ之ヲ免除サルル青年ノ數ハ大イ。此ガ凡ベテ年々兵役義務者ノ平均四五、八%ニ上ル。此等ノ人ハ兵役勤務ノ實行ガ件フ所ノ犧牲及損失カラ免除セラルル。此故ニ此ニ公正原則ヨリノ平準ヲ要求サレバナラナイト。²¹⁾其他一八八〇年四月二十七日ノ奧國議會ニ於ケルふつくすノ演舌ニモ本税徵收ノ理由ハ充タスヘキ人的勤務ニ對スルノ對價デハナクテ非勤務者ガ服務者ニ對シテ營利ノ爲メニ重要ナル年々十分ニ利用スルコトニヨツテ一層大ナル利益ヲ受クル其ノ軍務負擔ノ分配上ノ不平等ノ緩和デアル。平準的正義ガ即チ此税ノ基礎トナル。各人民ハ其給付能力ニ從テ其義務ノ實行ヲ爲スヘキデアルトアリ、一八八一年三月二十八日ノ獨逸帝國議會ニ於ケル時ノ帝國藏相しよるつノ演舌ニモ本税ノ理由ヲ經濟的損害ニ對スルノ平準ト爲シテ居ル。²²⁾はるりんぐモ亦租税ニヨツテ唯ダ勤務ノ經濟上ノ不利ニ對スル平準ノミガ備ヘラルヘシトイフテ居リ、²³⁾はうふハ前項傍註ニモ注意スル如ク本税ノ理由トシテハ廣ク兵役勤務者ノ負擔ト爲役者ノ租税トノ平準トナ説クモノデハアルガ、別ノ處テ本税ノ目的ハ一般兵役義務ノ金錢上ノ負擔ノ平準ヲ齎ラスコトデアルトイフテ居ル。²⁴⁾

此說ハ前說ノ如ク兵役勤務ノ高キ意義ヲ輕視スルノ弊ニ陷ラズ、人的給付ト物的給付トノ平準困難ナルモノヲ強キテ平準セシメントスルノ缺點ヲモ免ルルコトガ出來ル。茲ニ至テハ經濟上ノ負擔ト經濟上ノ負擔トノ平準ユヘ、理論上容易ノ業ノヤウデアルガ、平準トイフコトヲ證據トスレバニノ經濟上ノ負擔ノ一致ヲ必要トスルコトニナル。然ルニ其ハ實際ニハ到底出來ナイ。夫ノ兵士

20) Vocke, a. a. O. S. 94-5.
 21) Vocke, a. a. O. S. 99.
 22) Fersch, a. a. O., im F. A. 28 Bd. S. 203.
 23) Marcinowski, a. a. O. S. 10.
 24) Hauff, a. a. O. S. 55.
 25) Harling, a. a. O. S. 7.
 26) Hauff, a. a. O. S. 29.

ノ郷家ヨリ取寄セル金位ハ明カデアルガ、^(註九)兵士ノ經濟上ノ負擔ハ其レダケデハナイ。兵士トナル爲メ、修業中修業ヲ妨ゲラレ、卒業期ガ遅レ、或ハ職業ヲ失ヒ、進級ガ遅レル等ノ經濟上ノ不利モアツテ、其等ノ損害ヲ計算スルコトハ困難デアリ、更ニハ社會階級ニヨツテモ其損害ノ程度ガ異ル。之ヲ一々計算スルコトモ出來ナイ。即チ此ニ在ツテモ平準トイフコトノ困難ナル弊ヲ免レナイノミナラズ、所謂兵役勤務ノ負擔ヲ見ルノニハ元來經濟的犠牲ノミ離シテ見ルコトノ不合理デアリ、然リトテ其人的負擔ヲ租税ノ物的給付ト平準サスヘキモノデナイトイフニ於テハ、愈愈以テ困難ヲ感ジナケレバナラヌ。テ結局此平準税ヲ棄テテ免役者ノ給付能力ノミヲ見ル吾人ノ見方ノ正當ニシテ容易ナルヲ選ブノ外アルマイ。

(註九) しゆみつとノ計算ニ依ルト、郷達デハ兵士ノ取寄金ハ年平均二四、馬克三六馬克ヨリ六〇馬克ノ間デアルトイノガ、⁽²⁸⁾予ガ信據スヘキ方面ニ就イテ日本ノ兵士ノ取寄金ヲ調べタ結果ハ左ノ如クデアル。

大正四年一月一日乃至十二月末日

月次	總人員	郷里ヨリ送金額	送金多額ノ理由
一月	九七	總計 一人平均	
二月	九七	計 一人平均	
三月	九七	計 一人平均	
四月	九七	計 一人平均	
五月	九七	計 一人平均	
六月	九七	計 一人平均	
七月	九七	計 一人平均	
八月	九七	計 一人平均	
九月	九七	計 一人平均	
十月	九七	計 一人平均	
十一月	九七	計 一人平均	
十二月	九七	計 一人平均	
計	九七	計 一人平均	
平均	九七	計 一人平均	
野營	九七	計 一人平均	
機動演習	九七	計 一人平均	

27) Strahl, a. a. O. S. 164.
28) Hauff, a. a. O. S. 20.

(四) 對償物トスルモノ

此說ハ本稅ヲ以テ免役者ガ其免役ニ對シ支拂フヘキ對償物トスルノデアル。(註七)

(註一〇) れじがんでハ之ヲ以テ實際ノ軍務勤務給付ヨリ免除サレタル勤務義務者カラ給付スヘキ償物又ハ對等物(Aequivalent)トスル²⁹⁾に³⁰⁾すモ亦之ヲ以テ人的勤務給付ノ對償物トスル所デアル³¹⁾。えんぬびつクガ免役者ニ要求セラレタル金錢上ノ賠償トスルモ同意デアル³²⁾。其他³³⁾につちガ免役者ハ特段ナル利益ヲ受クルガ、其特段ナル地位ノ賠償ニ於テ彼等ガ一般ノ支出ニ與カルコトハ公平ナリトイフモ同デアル³⁴⁾。

併シ此說ハ全ク租稅ノ本質ニ反スル。此說ヲ正シトスレバ、對償物ト本物トノ間ノ同價値トイフコトガ證明サレナケレバナラスガ、此ハ出來ナイコトデアル。加之兵役勤務其モノガ代償サルルコトヲ許スガ如キ性質ノ給付デハナイ。(註十一)

(註一二) はうふハ曰ク祖國ヲ防衛スルコト、人ノ有スル最高キモノ即チ血ト生命トヲ以テ祖國ニ盡スコトハ、確ニ高キ義務デアル³⁵⁾。斯ノ如キ人的給付ヲ貨幣ニヨリ代償スルコトハ全ク不能デアルト³⁶⁾。れさんハ本稅ハ人的勤務ニ對スル對償物デナイ。精々貨幣給付ニヨリテ爲サル人的終付ノ補償デアル。——此ガ貨幣ニ依ル(人的勤務ノ)代理デハナイトイフテ居ル³⁷⁾。

(五) 免役者ノ受クル經濟上ノ利益ニ基クトスルモノ

之ヲ唱フルノハへつけるデ、彼ハ本稅ノ理由トシテハ兵役ノ人的勤務義務ノ實行ガ人的及經濟的犧牲ヲ示シ、之ヨリ免除サレタルコトガ免役者ニハ經濟上測定スヘキ利益也トイフコトノ擬制ノミガ殘ルトイフノデアル³⁸⁾。

29) Lesigang, Das Wehrgeld, im Jb. f. N. u. S. 32 Bd. S. 267.

30) Strahe, a. a. O. S. 135.

31) Hennebique, Taxe militaire, en Say, Dict. d. f. II. p. 1325.

32) Nitti, Principes de science des finances. p. 596.

33) Hauff, a. a. O. S. 54.

34) Schott, a. a. O. S. 41.

35) Heckel, Wehrgeld, Wehrsteuer, im Elster' Wb. 2. Aufl. II. S. 1308. Derselbe, Lehrbuch. I. S. 117.

此説ハ吾人ノイフ如ク給付能力説ニ來ルコトモ出來、第二ノ經濟的平準説ニ行クコトモ出來、第四ノ對價説ニ出ヅルコトモ出來ル。融通性ヲ負ブル特徴ハアルガ、一步ヲ進メテ之ヨリシテ給付能力説ニ到達シナカツタコトハ遺憾デアル。

(六) 一ノ犠牲トスルモノ

之ヲ唱ナルハ例之でふいすデアル。彼ハ全ク兵役勤務ヲ給付セザル者又ハ唯制限セラレタル兵役勤務ヲ給付スル者ニ貨幣的犠牲ヲ課スルコトハ唯ダ公正デアルトイフノデアル⁽³⁶⁾

此説ガ本税ヲ以テ一ノ犠牲ト認ムルコトニハ固ヨリ異議ハナイガ、更ラニ一步ヲ進メテ之ト調和シ得ヘキ給付能力ノ根據ヲ明ニシ之ヲ突留メナカツタノハ惜ムヘキコトデアル。

(七) 實際財政收入上ノ目的ニ適フトスルモノ

即チ本税ガ國家ノ適當且ツ多收ナル收入源ナリトイフコトニ本税ノ理由ヲ置クノデアル⁽³⁷⁾

併シ此説ハ本税ノ附隨理由トハナルガ、主要理由トシテハ不十分デアル。特ニ實際上本税ヲ以テ多收ナル收入源トイフノハ過ギテ居ル。

(八) 國家ノ兵卒ニ對スル世話ノ不十分ナルコトニ本税ノ必要ヲ認ムルモノ。^(註二)

(註二) しえふれーガ之ヲ唱フル。彼ハ曰ク兵士ノ十分ナル世話ノ爲メニ經常税ニヨツテ收入ガ得ラルコトガ出來ナケレバ愈々以テ本税ヲ行フノ外ナキコトナルト、又曰ク兵士ノ給養、廢兵ノ世話、現役者及服務中倒レタル者ノ家族ノ扶養ガ本税ガ達セントシ而モ達スル能ハザル目的ノ土臺トナル。此方面ニ於ケル軍務行政ノ任務ガ十分ニ行ハレ、此ニ對スル方便ガ

36) Schott, a. a. O. S. 42.

37) Eheberg, Fw. 9Auf. S. 402.

38) Schäffle, Steuern Besonderer Teil. S. 392.

出來ルダケ完全ニ發達シタル租税制度ニヨツテ既ニ備ヘラレテ居ルナラバ、不良ナル本税ノ如キモノヲ採ルニハ及バナイコトナルデアラウト。³⁹⁾

此説ニ依レバ兵士ノ世話ノ方便ガ既ニ十分ナラバ本税ノ必要ナシトイフコトニナルガ、實際本税ハ給付能力ノ觀察點ヨリ是非ナケレバナラヌ等ノモノデ、所謂完全ナル租税制度ヲ作ルニ缺クヘカラザルモノデアル。假令夫ノ方便ガ十分デアツテモ、尙ホ且ツ要求セラルヘキモノデアル。

(九) 收額ヲ勤務者ノ利益ニ使用スルコトニ本税ノ正當ヲ認ムルモノ。(註十二)

(註十三) うんぶんばつはカ之ヲ唱フル所デ、彼ハ財政ヨリシテハ本來此税ナンカ採ルヘキモノデハナイ。此ガ財政ヲ去リ社會經濟ニ任カサレタル時ニノミ存在理由ガアリ、其收入ハ兵役勤務者ノ家族ニ利益トナル國家財團ヲ作ルコトニナレバ、本税ニ依ル寄與ハ賛成スヘキモノデアルトイフ。⁴⁰⁾ はうふモ亦タ本税ノ性質ハ其收入ガ服務者ニ實際利益トナルコトニ條件セラレ、此ガナケレバ其存立理由ヲ失ヒ及特ニ其道義上ノ理由ヲ失フト爲スモノデアル。⁴¹⁾ 彼ハ其方法トシテ¹⁾兵士給與ノ増加、⁽²⁾演習ノ爲メ招集セラレタル兵士ノ給養ノ改良、⁽³⁾勤務終了ノ後ニ各兵士ニ或金額ノ給與ヲ舉グル所デアル。⁴²⁾

此説ニ依ルト本税收額ヲ服務者ノ利益ニ使用シナケレバ本税ノ存立理由ヲ失フトイフノデアアルガ、却テ本税收額ヲ特定目的ニ指定スルノガ、本税存立理由ヲ失フトモイヒ得ル。其ニハ例外モアルカラ許ストシテモ、一般經費ニ充當スルガ如キ使用方法ヲ本税收額ニ否定スルノハ當ヲ得ヌ。論者ハ兵卒ノ受クル所ノモノノ少キコトヲ心配スルヤウデアルガ、恰カモ彼等ノ受クル所ノモノノ少キコトガ其ノ勤務ノ高キ名譽ヲ示ス所デアアル。毫モ其給與ノ少キコトニ心配ヲ要セヌ。

39) Schäffle, ebenda, S. 397.
40) Umpfenbach, Fw S. 137-8.
41) Hauff, a. a. O. S. 37.
42) Hauff, a. a. O. S. 30.

(一〇) 或不道義的實行即チ免役トナランガ爲メ身體ニ缺點ヲ作ルヲ防止スコトニ於テ有益ナリトスルモノ。(註十四)

(註一四) につちハ本税ガ或不道義的實行ヲ妨グル意義ニテ有益也トイヒ、青年ハ到ル處兵役ヲ免ルルガ爲メ身體ニ缺點ヲ作ラントスルモノ也ト注意シテ居ル。⁴³⁾ ちつてえんはーふあーモ亦此税ガナカツタナラバ、人民ノ中ニ非軍人的職業ニハ差支ナクシテ兵役勤務ニ不適當トナラウトイフ能力ヲ生ズルトイフ。⁴⁴⁾

此說ニモ多少ノ眞理ハアル。ガ併シ此税ヲ設ケタ爲メニ其位ノコトデ大シテ夫ノ不道義的實行ヲ防止スルコトハ出來ナイデアラウ。又此不道義的實行ヲ防止スルノハ主トシテハ教育ニ待ツヘキモノデ、隨テ此理由ハ本税ノ附隨理由トハナルガ、主理由タルノ資格ハナイ

(一) 人種改良ニ適フ即チ一般兵役義務ガ人種劣惡ヲ進ムルノヲ本税ニヨリ防止セントスルモノ。(註十五)

(註一五) しやるまいやーガ近時國防税ヲ一般兵役義務ニ依ル人種劣惡ヲ防クノ手段トシテ曉ムルコトナツタトイフ。⁴⁵⁾

此說ハ畢竟前ノ第十說ノ反面ヲ表ハスニ過ギナイ。主理由タルノ資格ハナク、單ニ附隨理由タルヲ得ルニ止マル。

(二) 人口事情ニシテ本税ヲ助成スルモノアリトスルモノ、即チ一般ニ貧民ガ富者ヨリモ一層多産デ、免役ノ最大限ガ却テ一般ニ中等階級及富者階級ノ如ク餘裕大ナルモノニ存ストスルモノ。⁴⁶⁾ 成程貧民ノ間ニ富者ヨリモ多産多兒ナルコトハ事實デアル。併シ此アルガ故ニ免役ノ最大限ガ

43) Nitti, l. c. p. 596.

44) Haufl, a. a. O. S. 26.

45) Strahl, a. a. O. S. 131-2.

46) Nitti, l. c. p. 596.

中以上ノ階級ニ存スルトハイヘナイ。若モ同一ノ割合ニテ免役者ガ生ズルトスルナラバ、ムシロ
貧者ニ於テ、富者ニ於ケルヨリモ免役者ガ一層多クナル譯デアル。尤モ此説ヲ爲ス所ノにつちノ
住スル伊太利デハ一人息子ヲ免役トスルカラ、此伊太利ノ事情カライフト、免役ノ最大限ガ中以上
ニアリトイハルル。孰レニセヨ免役ノ最大限ガ中以上ニアリヤ下層ニアリヤハ、敢テ本税ノ存立
理由トナルニハ足ラナイ。本税ハ中以上ノ階級ニテモ免役者ナキ處ニハ課スルコトヲ得ナイシ、
下層社會ニテモ免役者アル處ニハ相當ニ課スルヲ得ルコトトナルモノデアル。

(一三) 民主的の平等觀ニ基クトスルモノ。(註十六)

(註一六) しえふれーハ時代ノ民主的の平等觀ガ増長スルニ隨ヒ、愈々本税ガ行ハルコトトナルデアラウトイフテ居ル。⁴⁷⁾

此説ハ畢竟前ノ平準説特ニ全軍務負擔分配説ヲ異ツタ詞ヲ以テ表ハシタモノニ外ナラヌ。此モ
一ノ見方デハアルガ、租稅論上ノ説明トシテハ適當セヌ。

(一四) 服務者ノ不平感情ヲ融和スルノ具トシテ必要ナリトスルモノ。(註十七)

(註一七) 之ニツイテハびすまろクガ一八八一年二月四日ノ普國議會、一八八一年三月二十八日ノ普國議會ニ於ケル演說中ニ
『軍統ヲ擔フ所ノ兵士ガ其考ニ依レバ勸務ニ堪ユル所ノ隣人ノ家ニ止ルノヲ見ルトキニ、彼ニ起ル感知ノミガ本税ニ動機ヲ
與ヘタ』トイヒ。⁴⁸⁾ えーべるひハ予ノ見ル所デハ此税ノ最良ノ根據ハ此ノびすまろクノ演說デアアルトイツテ居ル。⁴⁹⁾

此説ハ一見尤モノヤウデアルガ、一體兵役勤務ノ出來ルコトハ一ノ高キ名譽デ、服務者ハ其出

47) Schäffle, a. a. O. S. 392.

48) Marcinowski, a. a. O. S. 20 Hauff, a. a. O. S. 52. Eheberg, Wehrsteuer, im Conrad' Hwb. VIII. S. 678.

49) Eheberg, ebenda.

來ザルモノニ比シテ一層幸福ナル境遇ニ在ルコトヲ感ジナケレバナラス。加之兵役勤務ニ就キ得ル程ノ者ハ大體一層健康ナルコトヲモ意味スルカラ、此ニ於テモ彼ハ一層幸福ナル境遇ヲ感ジナケレバナラス。所詮人間ハ一生涯自己ノ完成ト社會ニ對スル貢獻トノ爲メニ盡スヘキモノデ、假令兵士ト爲レルガ爲メニ立身ヤ殖財ガ遅レタトモ、他方軍人トシテ或大ナル仕事ヲ爲シ、自己ノ完成ニ資シ、社會ニモ貢獻シタル以上、彼トシテハ優ニ埋合セテ得テ居ルト考フヘキモノデアル斯ク考フルノガ彼ノ道義的ノ考方デアル。(註十)然ルニ斯ク考ヘズ、唯ダ隣人ヲ見テ不平ノ感ヲ懷クガ如キハ不道義的ノ考方デアル。之ニ對シテハ國家ハ寧ロ其誤リヲ訂正スヘク、此ニ同情シテ施設スルナドハ以テノ外ノ事デアル。又斯カル感知ヲ有ツ者ニ顧ミテ國家ガ別ニ免役者ノ方ニ就イテ本税ヲ課シタカラトイフテ、其不道義的ノ考ヲ爲ス者ガ満足スルデアラウガ、恐ラク不平ハ矢張り存續スルデアラウ。所詮人の給付ハ經濟的給付デ平準サルルコトハ出來ナイ。若シモ彼等ニシテ此ニテ満足スルナラバ、自己ノ兵役勤務ト金錢給付ト同一視シタモノデ、兵役勤務ヲ見ルコト輕キニ失ストイハナケレバナラス。是亦タ心得違デアル。何レニシテモ夫ノ不平感情ヲ尤モトシテ斟酌スルノハ宜シクナイ。(註十一)勿論服務者ガ不平ヲイフヘキモノデナク、其兵役勤務ニ伴フ所ノ負擔ニ對シテ其ト並行スル幸福ヲ顧念シテ満足スヘキモノデアルトイフタトテ、他方免役者ガ免役ニツイテ無頓着デアルヘキモノデハナイ。彼等トシテハ又道義上其ノ國家社會

ニ對シテ盡スヘキモノヲ盡サナカツタコトヲ認メナケレバナラヌ。更ニ其免役ニヨリ生セラレタル特段ナル給付能力ニツキ特段ナル租税ヲ負フヘキコトヲ自認シナケレバナラヌ。本税ノ根據ハ此ニ存スルト同時ニ、夫ノ感情斟酌論ハ排斥シナケレバナラヌ。

(註一八) さらいちゆけハ全ク健全ナル者(隨テ兵士トナレル者)ハ營利不能トイフ程ニ非ルモ或缺點ヲ有スル者(免役トナレル者)ヨリモ大體一層幸福ナリトイフコトノミガ單純ナル自然的原則ヨリ生ズルモノデ此ガ凡ベテノ强健ナル人ノ單純ナル自然的ノ考デアルトイフ。⁵⁰⁾此ガ自然的ノ考方カハ事實問題トシテハ疑問デアラウガ、小クトモ此ガ道義的ノ考方デ、斯ク考フルヤウニ導グコトガ教育者ノ任務デアル。

(註一九) さらいちゆけハ前記びするくノ演説ヲ駁シテ曰フニハ子ハ其隊人が共ニ軍隊ニ行カザルコトニツキ怒ル所ノ兵士ノ感知ニ、或肉體上ノ缺點ヲ有スル勇敢ナル青年ニシテ喜ンデ祖國ノ爲メニ其身ヲ獻ゲヤウトスルモ之ヲ爲ス能ハザルガ爲メニ謂ハバ罰金ヲ出サナケレバナラヌコトヲ全ク痛苦ニ感スルモノヲ對立スル。予ハ敢テ問フ。此ニノ感知ノ中孰レカ一層健全ニシテ一層立法者ヨリ考慮スヘキモノナルカヲト。⁵¹⁾彼ガ本税ヲ罰金トイフノハ當ラナイガ、夫ノ怒ル所ノ軍人ノ心理狀態ヲ非難スルノハ當テ得テ居ル。

50) Marcinowski, a. a. O. S. 28.

51) Marcinowski, a. a. O. S. 28. Hauff, a. a. O. S. 53.